

情報通信審議会 情報通信技術分科会 公共無線システム委員会
技術的条件作業班(第2回)議事要旨

1 日時

平成21年6月18日(木) 10時00分～11時00分

2 場所

総務省10階 共用1001会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 構成員

原田 博司(主任:(独)情報通信研究機構)、芦屋 秀幸(国土交通省)、
小野 光洋(富士通(株))、加藤 数衛((株)日立国際電気)、狩俣 恭太郎((社)電波産業会)、
作田 吉弘(消防庁)、志賀 康男(警察庁)、鈴木 淳((財)移動無線センター)、
竹内 嘉彦(日本無線(株))、成澤 昭彦(パナソニック(株))、柳内 洋一(日本電気(株))、
山崎 高日子(三菱電機(株))

(2) 説明者

大堂 雅之((独)情報通信研究機構)

(3) 事務局

佐々木 祐二(基幹通信課長)、沼田 尚道(重要無線室長)、
近藤 玲子(基幹通信課課長補佐)、伊沢 好広(重要無線室課長補佐)

4 議事

議事に先立ち、説明者の紹介が行われた後、以下の議題について審議が行われた。

(1) 主任代理の指名

原田主任より、加藤構成員が主任代理に指名された。

(2) 前回議事要旨の確認について

公共無線システム委員会技術的条件作業班(第1回)の議事要旨(案)が了承された。

(3) 「公共・公益分野における移動無線システムのブロードバンド化等に関する調査検討」における検討状況について

(独)情報通信研究機構の大堂主任研究員より説明が行われた。主な質疑は以下のとおり。

(芦屋構成員) 資料16ページの下、『この結果を基に UPLINK の場合についても推定すると、半径5km程度が通信エリアとして想定できる』というのは、どのように推計して5kmとなったのか。

(大堂研究員) 16ページの試験結果は、基地局から20Wで送信した場合のダウンリンクの伝搬特性

を測定した結果である。この結果から、アップリンクの方を考えると、移動局からの送信出力が5W程度であるため、基地局での受信電力も下がる。ダウンリンクでは半径約10kmで-80dBmの値となっているが、同様に基地局での受信電力を-80dBmと想定すると、アップリンクの通信エリアとしては、基地局と移動局の送信電力の差を考えると、半径約5km程度になると推定される。

(小野構成員) 資料22ページの伝送特性試験用チャネルモデルについて、沼津の値は資料17ページに載っている結果から実際の遅延を書いているのか。

(大堂研究員) 遅延波のピークを抜き出したもの。

(4) その他

主な質疑は以下のとおり。

(志賀構成員) 携帯端末向けマルチメディア放送との干渉検討の結果について、このデータをもとに、これから作業班で検討していくという理解でよいか。

(原田主任) 必要に応じて作業班の下にアドホック会合を設置するなどして議論していくことが考えられる。

最後に事務局から、次回の作業班は7月8日午前10時からとの連絡があった。

<配付資料>

資料 2028-WG-2-1 公共無線システム委員会技術的条件作業班(第1回会合)議事要旨(案)

資料 2028-WG-2-2 「公共・公益分野における移動無線システムのブロードバンド化等に関する調査検討」における検討状況